

## 瀬波温泉への来訪

昭和12年2月10日、長岡の商人羽賀虎三郎の招待で瀬波温泉養真亭に宿泊した。晶子は養真亭主人の案内で、湯元や赤松林、浜辺へと足を運び、45首もの歌を詠み残した。

## 『養真亭』跡地 (与謝野晶子投宿の宿)

『養真亭』は明治末期に創業した老舗旅館。現在の龍泉の辺りとみられる。当時の様子は『晶子来遊記』によると

「村上の駅へ着きましたのは二時頃であつたかと思ひます。直ちに瀬波へ向ひ、養真亭と云ふ松山の裾に、三面山に向いた家へ私達は入つたのでした。……その時から降り出して、……その時から降り出して、……。」と記述されており当日の様子が見えます。



## 温泉街の散策 (湯元-松林-瀬波海岸)

晶子一行は館主波濟氏に案内され、宿から湯元を見学し、赤松林を抜けて浜辺へと出て、佐渡や粟島を眺めました。

当時の海岸に通じる道は狭い小路で、その



両側は赤松林で覆われていました。



## 与謝野晶子

(1878 ~ 1942)

温泉は  
いみじき瀧の  
いきほいを  
天に示して  
逆しまに飛ぶ  
晶子

昭和12年2月10日瀬波噴湯場にて

明治11年、堺の甲斐町に和菓子商駿河屋の三女として誕生した。戸籍名は志よう。

明治、大正、昭和を短歌とともに生き「情熱の歌人」と呼ばれ、近代文学史上屈指の女性であった。同時に与謝野鉄幹(寛)の妻であり11人のこどもたちの母でもあった。

明治34年に出版された『みだれ髪』は浪漫主義の代表作でもある。

## お問い合わせ

### 瀬波温泉旅館協同組合

〒958-0037 新潟県村上市瀬波温泉 2-7-24  
<http://www.senami.or.jp>

TEL 0254-52-2656

### 村上市観光協会

〒958-0854 新潟県村上市田端町 11-8  
<http://www.sake3.com/>

駅前観光案内所 むらかみ旅なび館  
TEL 0254-53-2258

瀬波温泉

与謝野晶子

歌碑めぐりマップ。

# 与謝野晶子歌碑めぐりマップ



## 与謝野晶子が瀬波温泉で詠んだ短歌

昭和12年2月10日 当時60歳

- 三つ四つ女松の山を結びたる 藤むらさきのうす雪の路
- 柔らかに湯の櫓をばめぐりたる 浅き泉の灼熱の水
- 我友は暫く雪を踏みに出づ 越の瀬波の湯の雪下駄に
- 松山と松山の雪中白く 村上の灯がそはのぼりに点く
- いづくにも女松の山のゆるき裾 見ゆる瀬波に鳴る雪解かな
- 松山を春雨籠むる日のみあれ 通ひ来なまし雪山のもと
- 瀬波にて板屋の雪の上を立つ 越の二月の雨聞く夜かな
- いづくにも女松の山の細ゆるく 見ゆる瀬波に鳴る雪解かな
- 地中より水晶の木を抜き去りし 後の餘沫とおほゆる噴湯
- 沙丘にも身の白き魚住む如く 雪ぞ舞ひたる磯より見れば
- しら玉の靴をうがちて美しき 雪解の水の走る軒かな
- 北方の海にそなへて幌のごと 沙丘張りたり岩船ごほり
- 越の田の雪解けそめてなまめかし 青藍色(あおいびり)の泥のじむは
- 三面の雪山白き雲にあり 彫られし如し大理石にも
- 続けるは粟生の島見に通ひたる 七面鳥の雪のあしあと
- 君のなきの出羽行きさびしさに 懲りてはぬれば越より歸る
- うしろには出羽(では)の山も重りて 雪濃くうすし幾つもの岬
- 北海に跨れるとも云ひぬべし 粟生の島山むらさきにして
- はろばろと白く曇れり雪山の いくつ立つらん北海の底
- 安らかに松山ならぶ雪光る 越の瀬波に春雨ぞ降る
- 北の海嶽の松山雪うすし 御寺の庭のしら鳩のごと
- 不覚にも二月の越の旅人が 雨の音をば愛して驚る
- 吹き寄りぬ温泉の熱気 くれなゐの桃の花などもたらず如く
- 粟生の島運び去られし夢のごと 寂しき北の海にあるかな
- 沙山は優にすぐれしものもなく 悪しきもあらず北海の前
- 北海の寂しき色を入恐れ また来て立たず長き沙山
- あかたかし北越雪譜噴き湯より 春の来たるを記さざれども
- 大海の佐渡粟生が島呼びかけん けはひあらねば歸る沙山
- あらぬかな佐渡の海府の赤石は 流れ寄れども異府の石は
- 松山のみどりの色のかたまりの ありて田畑の雪に雨降る
- 暖し長岡の雪いでまにも いくばくもなき岩船の雨
- そこばくの三角の雪組み合せ なりたる越の海府の岬
- 乗する雪解にまぎれ小降り 雪解に粉れ湯の霧ぞ散る
- うす雪の白象の皮敷ける路 沙丘の坂はかもしかの皮
- 大空へ煙の馬を走せしむと 白き噴湯の望まるる山
- きさらぎの雪解のしづく早く鳴り 心おちなるず越の旅人
- 岩船の海を見れども君と我が 佐渡へ越へたる世に逢ふならず
- 里の人椎朱のわざを樂める 越の瀬波を春雨に行く
- 温泉はいみじき瀧のいきほいを 天に示して逆しまに飛ぶ
- 砂山は肩を並ぶる大いなる 甕(もたい)のごとし岩船の濱
- 瀬波濱宿のあるじが率ひつつ 至れる中にあらぬ君かな
- 坂多き雪の瀬波のしづかなり 噴き湯動くは一とこころにて
- いちじろく瀬波に春の陽炎の立つと 噴き湯をとりなしてまし
- 岩船に越後を断つや北の海 な進みそよとあるや沙丘よ
- そぞろにもあまた並べなまめかし 雪の摺りたる沙丘のころも



与謝野晶子歌碑



養真亭跡地



与謝野晶子歌碑